

# 知識探訪

## 多民族社会の横顔を読む

協力：日本マレーシア学会 (JAMS)

### 選挙運動ボランティアと投票・開票立会人の経験

EE Juin Yuen Jason (イー・ジュンユエン・ジェイソン) (東京外国語大学大学院総合国際学研究所博士前期課程)



PHのマスコット「Jaguh」=スランゴール州カジャン (筆者提供)

2023年8月12日にマレーシアで行われた6州議会選挙において、希望連盟(PH)と国民戦線(BN)の与党連合はスランゴール州、ペナン州、ヌグリスンビラン州の政権を勝ち取り、野党連合の国民同盟(PN)はクランタン州、クダ州、トレンガヌ州の政権を保持した。今回の選挙で筆者は、スランゴール州でPHの候補者の選挙運動ボランティアを務めるとともに、当該選挙区のPHの投票立会人(PA)と開票立会人(CA)を経験した。

筆者が応援したのは2期目の当選を求める女性候補者で、優秀な若手政治家でもある。選挙区は首都クアラルンプールに隣接している華人系有権者数が圧倒的に多いため、PHにとっては楽勝できる選挙区と見なされたものの、投票率が低いことへの懸念があった。

そのため候補者は、朝市、夜市、商店街を回り、自分への投票ではなく、まず投票所に行って投票するように呼びかけることが多かった。人々の反応は基本的に良かったが、クォーター制に関するインド人女子学生の質問をアンワル・イブラヒム首相が途中で遮るような対応をしたことに怒っている人もいた。

選挙活動では街頭演説も頻繁に行われた。筆者は候

補者に同行して、アンワル首相や大物政治家が出席する超大規模の演説会に参加したり、コーヒーショップでの演説を応援しに行ったりした。聴衆の人数は22年11月の連邦議会下院の総選挙と比べて少なく、聴衆より党员の方が多いと感じた時もあったため、党内からまずいのではないかとという声も聞かれた。

筆者は投票日にPAとCAを経験した。筆者のシフトは、PAが午前8時～正午と午後4～6時で、CAは午後6時開始だった。担当したのは選挙区内の小学校のチャンネル9番(Saluran 9)で、有権者の年齢が50～54歳だった。対立候補の政党のPAとCAはいなかった。投票場の責任者によると、前回の選挙も相手政党の立会人は来なかったそうである。

正午までの投票率はかなり低く、全選挙区でも4割を超えていなかったらしい。その後は1時間ごとに50人くらいの投票があって投票率は順調に上がり、最終的に7割近くになった。開票のプロセスも順調で、PHは3桁の票を獲得し、他の政党は2桁の票を得た。

PAとCAの仕事も大変だったが、マレーシア選挙委員会(EC)のスタッフは、手洗いとお祈りを除いて、朝から晩まで同じ場所にいた。ただし残念ながらECに対する不信感は低くなく、投票のバツの書き方が悪かったり、投票済みを示すインクが票についてしまったりしたら廃票にされるのではないかと心配する人もいた。

今回の選挙で筆者は全国各地の方と知り合った。PHの連邦議会議員のアシスタントやボランティアは皆さん元気で、指示通りに候補者を全力で応援していた。選挙の結果は別にして、政治に熱情を持つ若者が大勢いたのを見ると、マレーシアの未来はきっと明るいと感じられた。

#### < 筆者紹介 >

マラッカ州出身。東京外国語大学大学院総合国際学研究所博士前期課程在籍中。立命館大学政策科学部卒業。学士(政策科学)。マレーシアの政党政治を研究している。趣味はバドミントンと風景写真の撮影。チャークイティオとニョニャ・チェンドル(かき氷)が好物。